

中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会
第 2 回 環境利用学習専門部会資料

漫湖水鳥・湿地センター視察

平成 17 年 3 月 2 日

内閣府沖縄総合事務局開発建設部
沖縄県土木建築部
沖縄市東部海浜開発局
(財)港湾空間高度化環境研究センター

漫湖水鳥・湿地センター視察

1. 視察日時・場所

- (1) 日時 平成 17 年 1 月 26 日 9:30 ~ 12:00
(2) 視察場所 漫湖水鳥・湿地センター，漫湖干潟，漫湖公園

2. 施設概要

(1) 所在地

センター是那覇市と豊見城市にまたがる場所で、奥武山公園駅から徒歩 15 分、壺川駅から 25 分の距離に位置している。(図-1 参照)

901-0241 沖縄県 豊見城市 字豊見城 9 8 2

098-840-5121

URL http://www.geocities.jp/manko_mizudori/sougou.html

(2) 施設目的

漫湖水鳥・湿地センターは、ラムサール条約登録湿地である漫湖の水鳥をはじめとする野生生物の保護と湿地の保全、賢明な利用について理解を深めていくための普及啓発活動や調査研究、観察などを行う拠点施設として、さらには地域住民が自然に親しみ学ぶ場として、また各種団体の保全活動、環境調査を支援する場として、環境省が設置したものである。

主要な事業内容は以下の 4 項目である。
漫湖の自然についての展示・解説
自然保護のための普及啓発
漫湖における環境教育
調査研究



図-1 漫湖水鳥・湿地センターの位置

(3) 整備年月：平成 15 年(2003 年) 5 月開設

(4) 施設整備状況(RC 造：2 階建て)

1階：エントランスホール、展示室、事務室、多目的ルーム、トイレ、シャワー室、湯沸かし室等

2階：観察展望コーナー、図書コーナー、レクチャールーム、トイレ、沖縄南部自然保護官事務所



写真-1 水鳥・湿地センターの概観

(5) 管理運営

沖縄県、那覇市、豊見城市、環境省沖縄奄美地区自然保護事務所の4機関で構成する「漫湖水鳥・湿地センター管理運営協議会」が管理運営を行い、沖縄県 150 万円、豊見城市 55 万円、那覇市 50 万円の費用負担で運営している。

3. 視察結果

3.1.施設内容及び運営について

利用者は、1F のレクチャールームで干潟の機能・重要性と施設概要についての紹介（写真-2 参照）を受けた後にあらかじめ用意された展示物の利用へと移っていく。レクチャールームには遠隔操作の超望遠カメラによる画像を用いた干潟観察が可能なスクリーンが用意されている。

展示室には、タッチパネル・ジオラマ・図鑑と鳥の鳴き声再生装置(写真-3)により、「観たり」、「触れたり」、「聴いたり」しながら、様々な形で観察・学習できるよう工夫されている。



写真-2 レクチャーの状況



写真-3 鳥の泣き声図鑑

遠隔操作の超望遠 CCTV がとよみ大橋と爬龍橋の交差部に設置されており(写真-4)、施設内で身障者やお年寄りが臨場感あるリアルタイム映像を楽しむことができる。

絵画展示コーナーは、絵画展・写真展など各種企画に活用できる。また、環境に配慮し、エアコンは設置されておらず、夏場は窓を開けている。

観察展望コーナーには、干潟・水鳥観察用の望遠鏡が設置されており、来館者は自由に干潟の状況を観察することができる（写真-5）

施設内は身障者の利用に配慮されており、駐車場は身障者用スペースが設けられ、施設内までバリアフリーとなっている。



写真-4 干潟観察用 CCTV



写真-5 展望コーナーでの観察状況

3.2.施設の利用状況

平成 15 年 5 月 17 日～平成 16 年 3 月 3 日の累計入館者数は 23,032 人¹であり，平成 16 年(2004 年)は 3 万人を越えている．

月別入館者数は，夏休み前に総合学習などの団体が多く，夏休みに入ると毎日のように親子連れが入館したことにより，7,8 月の入館者数が多くなっている．曜日別には，土曜・日曜の利用が全体の約半分を占めている．

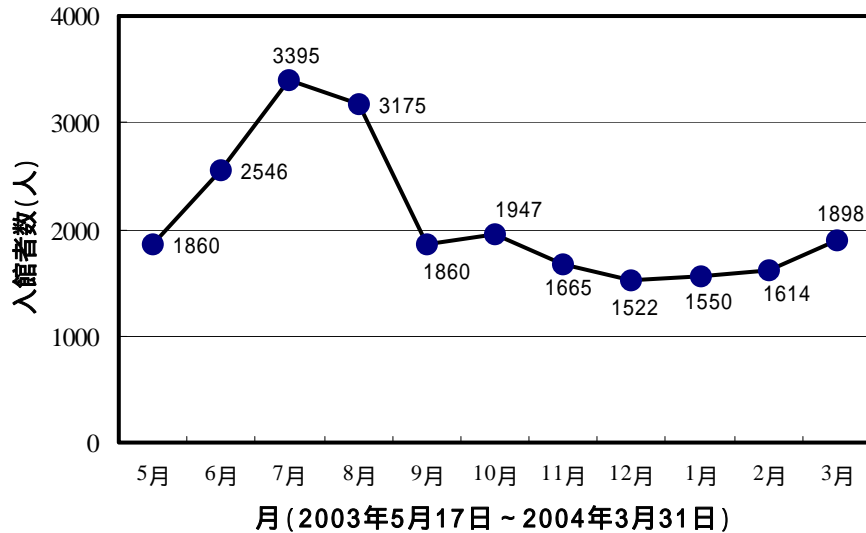


図-2 月別入館者数

市町村別には，那覇市と豊見城市が圧倒的に多いが，県外からの入館者も目立つ．今後，修学旅行等の県外からのかなりの入館者が予想される．

表-1 市町村別入館者数¹

市町村	人数	市町村	人数
1 那覇市	6,986	6 宜野湾市	340
2 豊見城市	4,093	7 浦添市	335
3 県外	1,794	8 南風原町	327
4 糸満市	386	9 名護市	262
5 沖縄市	370	10 西原市	233

団体利用者数は，全体の約 1/3 に相当する 7,778 人(149 団体)であった．団体区分で最も多いのは小学校で 16 団体であった．団体数では「その他の教育機関」で教師研修などを目的としたものであり，「総合学習の時間」での利用増が見込まれる．

表-2 団体による利用状況¹

団体区分	団体数	回数	人数	団体区分	団体数	回数	人数
保育園・幼稚園	18	27	743	その他の教育機関	23	23	534
学童・子ども会	15	15	558	医療・福祉関係	9	13	253
児童館	3	3	81	NPO 団体	4	9	131
小学校	16	29	2,329	その他	37	59	1,779
中学・高校	17	24	1,099				
専門学校・大学	7	13	271	合計	149	215	7,778

¹ 平成 15 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書，平成 16 年 5 月，漫湖水鳥・湿地センター管理運営協議会

センターの施設利用に際して、以下の点に注意しているようである。

センター利用の際、最初にオリエンテーションを行っており、安全面について説明する。その他、トイレの場所やセンター内禁煙・飲食禁止であることなど、センター利用の際の基本的な利用の仕方について説明する（適切な利用の方法を説明）。

施設運営を行っていく中では、センター案内だけではなく、年輩の方などの利用者から学ぶことが多い。それを踏まえて日々の施設運営の向上に努めている（来館者とともに施設を作り上げている）。

施設利用が無料だからといって何をしてもいいと勘違いする人がいるため、注意するなど常に厳しく管理している。

観察コースを設け、周辺の自然（漫湖干潟）や施設（漫湖公園、とよみ大橋）と一体となった活用を行っている。

3.3.漫湖干潟及びマングローブの状況（写真-6・7 参照）

漫湖内に生育するマングローブは主にメヒルギで占められており、その次にヤエヤマヒルギが生育する。オヒルギの生育は少ない。

漫湖公園護岸沿いに帯状に繁茂するマングローブは約10年ほど前「マングローブの会」（現在は活動していない）が移植したと聞いている。

地域からのセンターに寄せられる苦情は、マングローブの繁茂により漫湖公園側から対岸側が見えない、圧迫感があるなどがあるが、センターではマングローブの管理を含み干潟の管理面に直接関わることはできない（ヒルギ類の繁茂や野犬への対応等）。

ゴミ対策や安全面への提案等を関係機関に対して行っている。



写真-6 干潟上のヒルギ



写真-7 センター横のヒルギ視察

3.4.環境保全活動の状況（環境教育、清掃活動、等）

講座、指導者養成などが催され、また清掃活動等の環境保全活動を実施している。

WWFの環境教育プログラムの中で、「湿地学習コーディネーター養成講座(2003年12月実施)」を当センターで開催した（現時点ではその後の動きはない）。

漫湖自然環境保全連絡協議会及び那覇市との共催で清掃活動を実施している。

干潟の現状を目の当たりにして子供達がゴミを拾いたいといってくる。ゴミ拾いをするうちに、干潟に生息する生物を見つけて、さらに漫湖の干潟に関心をもっていくことにも繋げていける。ゴミ拾いやゴミ箱の設置もいいが、その前にゴミを捨てさせないことが大事であることを教えている。

清掃活動の際のゴミ処理に経費がかかり、また、引取先で苦慮している。収集したゴミの処理のため那覇市にもっていくとゴミの持ち込みが多すぎるといわれる。また、役所ではゴミの場所も詳しく聞かれ、那覇市と豊見城市の位置関係を確認される。

水鳥・湿地センターの Web ページで紹介されている現在の講座・イベント情報を下表に示す。

表-3 漫湖水鳥・湿地センター主催の講座・イベント（例：Webページより）

		漫湖水鳥・湿地センター主催の講座・イベント
開催予定日	募集定員	イベント・講座名
3/6(日) 10:00-12:00	30名 要予約	漫湖へ出かけよう！「はじめての野鳥観察」 講師・・・宮城 国太郎先生(沖縄野鳥の会) 対象・・・小学校3年生以上 参加費・・・100円(保険料) 双眼鏡は貸出します。野外に出るので温かい服装、動きやすい靴で来て下さい。
2/26(土) 9:30-12:00 (漫湖大清掃) 14:00-17:00 (野鳥観察会)	制限なし 当日受付	漫湖チュラカーギ作戦 14 --あなたの一歩が明日への川づくり-- 漫湖大清掃です！清掃できる軽装でご参加下さい。できるだけ、軍手、ゴミ袋(買い物袋など)を持参してください。(事務局でも準備します) 午後は、野鳥観察会もあります。 集合場所:漫湖水鳥・湿地センター 主催:漫湖自然環境保全連絡協議会・那覇市 お問い合わせ:那覇市環境保全課 951-3229
2/19(土) 10:00-16:30	24名 (那覇市・豊見城市の小中学校教員対象) 終了	教師のための環境学習講座 --渡り鳥と漫湖を題材にして-- 環境省とWWFジャパンが作成した環境教育教材「地球を旅する渡り鳥たち」を利用して、身近な干潟の環境学習の方法を紹介します。当日は野鳥をはじめとした干潟の観察会を行うなど、初めての方でも干潟に関する環境学習に参加しやすいよう配慮しています。干潟や水鳥などを題材にした環境学習に関心がある方の申し込みをお待ちしています。学校での「総合的な学習の時間」の活用に最適です。 (参考:地球を旅する渡り鳥たちホームページ http://www.chidori.jp/education/) 開催場所・・・室内講習:漫湖水鳥・湿地センター / 野外実習:漫湖干潟 対 象・・・那覇市・豊見城市の小中学校教員で環境教育・環境学習に関心のある方 講座内容・・・渡り鳥(シギ・チドリ類)とその生息地である干潟に関する「環境教育プログラム」を理解し、干潟についての環境教育・環境学習を实践するための技能を修得します。 講 師・・・(財)世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)大倉寿之氏 参加費・・・無料 (環境教育教材「地球を旅する渡り鳥たち」も無償で配布)

3.5.漫湖内の野鳥生息状況，生物調査等の実施状況（ヒアリング結果）

野鳥を観察すると漫湖だけではなく，周辺の色々なところが繋がり，山，川，海が一带となっているのを感じる（潮汐の時間帯で知念村からサギが飛来してくる）。漫湖内に生息する野鳥は年間約 67～70 種類(日当たり約 12～13 種類)を確認している。

特に貴重な種の代表として，クロツラヘラサギ(写真-8)を挙げることができる。クロツラヘラサギは朝鮮からやってきて台湾まで行く途中，休憩のために沖縄にやってくる。11 月から 6 月くらいまで見ることができる。

くちばしと餌をとるしぐさが特徴的で，世界で 400～600 羽ぐらいしかいないといわれている。

植生調査は行っていない。

漫湖内で見られるカワセミは，漫湖とは別の所で繁殖し，採餌目的で移動してくると考えられるため，漫湖の近くにも土手を作って繁殖場を設置した方がよい。



写真-8 クロツラヘラサギ

3.6.センター周辺（観察コース，漫湖公園，とよみ大橋）の状況について

漫湖公園の管理は那覇市建設港湾部が行っており，木の種類・花の開花などを管理・記録している。漫湖公園の護岸側植栽は，NPO 法人（沖縄環境クラブ）が県から許可をもらってサガリバナ等を植栽している。

公園内の植物は，以前はガジュマル，デイゴ等の樹木が多かったが，花の咲く植物に切り替えている(実のなる木は管理しにくいので植栽していない)。

漫湖公園の延長 1.5km 内にトイレが 5 箇所設置されている。

異常潮位の際には公園沿いの道が低くなっているため冠水することがある（公園内は冠水しない）。

以前は公園内に低木が多く死角ができ酒を飲む人など不適切な利用者も多かったが，現在は低木を減らしているそのような状況はみられない。



写真-9 漫湖公園遊歩道の植栽状況

4. 視察参加者の感想等

漫湖水鳥・湿地センターから漫湖公園を中心にした視察を行い，参加者から以下の意見・感想があった．

泡瀬地区での環境利用学習・比屋根地区整備に当たっては，水鳥・湿地センターの説明者から説明があった運営上の問題点(やりたいことがなかなかできない)や，利用者への対応を参考にして，計画の段階から施設整備を検討した方がよい．

施設ができたのは良いが維持管理の面で色々問題があることが確認された．泡瀬地区への計画に当たっては，利用者の年代層や利用形態を考慮した施設内容となるよう充実を図るべきである．

漫湖水鳥・湿地センター周辺の環境が泡瀬・比屋根湿地と比べて全く同質というわけではない(異質な雰囲気もある)ので，注意が必要である．

周辺と一体化した形で施設利用の仕方を考えていかなければならない．

沖縄本島の南部と北部，あと八重山にもセンターのような施設があり，中部にもぜひこのような施設がほしいと感じた．